



クチュリエ
袴着 淳一

couturier
Junichi Hakamaki

profile
Educated at Parsons School of Design, New York. Worked for Gucci, Donna Karan, Salvatore Ferragamo and Calvin Klein. Creative director of Kenzo (New York), Deltamas (Japan) and couture of Junichi Hakamaki Haute Couture (Paris).

プロフィール
パーソンズ・スクール・オブ・デザイン (ニューヨーク) 卒業。Gucci, Donna Karan, Salvatore Ferragamo, Calvin Klein などのデザイナー、ディレクター等を経て、現在 Kenzo (ニューヨーク)、Deltamas (日本) のクリエイティブ・ディレクターとして活躍しながら、自身のオートクチュールをフランスにて製作する。



—東京について— About Tokyo —

僕にとって、東京という大都会は一度も長期間住んだことがないので、多分外国人が考え The impression of Tokyo for me may be something similar to that for ている東京像に近いものになるかもしれません。僕にとっての東京は、これほど信じられ foreigners because I've never lived in Tokyo for a long period of time. ないほどの数量の商品、それが服であれ、食べ物であれ、車であれ、世界中のものが一つ Amazing amount of clothes, food, cars, stuff, and everything from all の東京という場所に凝縮されているという感じがします。あまりにも情報量が多くて、 over the world is condensed here in Tokyo. The amount of どころから始めてよいのかとまどってしまう。一つは物量としての豊かさ、それと同時に information is so much and it makes us confused. We don't even あまりにその物の豊かさを感じる時に、とても単純だけれど何も無かった日本の精 know where to start. When our life became saturated with stuff, I 神的な何か欠乏していると感じさせられる。僕の小さな頃は九州で過ごして、田ん ぼの中で一日を過ごした。自然が僕達の遊び相手だった。あの日あの時のとてもシ with nature and spent all day in a rice field in Kyushu. Everything ンプルだけれど、楽しくてとても充実していた日々あの心の豊かさを頭の中から was so simple but filled with pleasure and satisfaction. The 取り去ることはできない。それはどの大都市にも共通していることかもしれない。 richness of my mind when I was kid is something I will never もう一つは、東京は日本人が今何に興味があるのか一番わかる所、日本のモダン forget. Tokyo is a place you can easily find out what Japanese 文化の一番面白いのが見えるのと同時に、一番ひどい所が見えるのも東京で people are interested in today and see Japanese modern ある。ニューヨークやパリと違ってこれだけ大都市なのにまだ単一民族でいる culture as well as the worst part of Japan. Tokyo is a big city ために、東京でしか見ることのできないことが多分にある。それは僕にとって like New York or Paris but very unique because it is still a も刺激になることが多く、素晴らしいインスピレーションになる。そのかわり、 racially homogeneous city. Tokyo often stimulates and 普通の日本人にとってはそれが当然なことが僕にとってはとても目新しく inspires me. Something ordinary for Japanese people I 見える瞬間、やはり少しずつ自分は外の人間になってしまっていることに、 might feel fresh or new, and this leaves me feeling 寂しさも感じる。僕にとって東京とは自分のルーツでありながら、それを alienated. Tokyo is my root, but a strange city because I 外の人間として観察しなければならないというとても不思議な街である。 have to look at it as a stranger.

—オート・クチュールで表現できた事— Things that I expressed thorough Haute Couture—

もうプロになって十数年になり、うまくデザインすることが当たり前になって来ました。その時に初 It has been more than ten years since I became a professional designer. I can make 心に返ってコレクションという観点からではなく、一つの服としてもう一度始めてみたかったです。 "good" design without trying so hard. Now I wanted to remember what was in my それに戻る為には、やはり学生の時のようにデザイン、ドレーピング、パターンメイキング、フィッティ ング、カッティング、そしてソーイングの全ての行程を自分でやることだと思いました。今現在クリエー something as part of "a collection". I figured the only way to remember that was to do ティブディレクターとしてたくさんのデザイナーがイメージづくりに活躍していますが、その中で everything on my own, like when I was a student, draping, pattern making, fitting, 基本である服を、始めから最後まで全行程を一人でできるのは多分アザディン・アライアー人だけ cutting, sewing, and everything there are so many designers out there today, but I だとも思います。その彼を僕は学生の頃からそして今でも一番のデザイナーとしてまたクリエーター believe Azadine Alaïa is the only designer who is making "a simple piece of garment" として尊敬しています。その基本に戻って僕にとって新しい服づくりそして新しい表現方法を見つ by himself from the beginning to the end. I have had great respect for him as a designer けたいと思ったのがクチュールを始めるきっかけになりました。ブレタと一番違うことは、魂の入り and as a creator since I was a student. I wanted to go back where I started, and I 方が全然違う点です。やはり人間の手とはすばらしいもので、長い間かかってその手でつくられたも wanted to find something new. That's the reason why I started Haute Couture. Haute のは不思議な魅力のあるエネルギーを吸収するんです。それも愛され、一つ一つ造られ、真心がすべ The piece has so much energy when it is completed because every single part is made によりなります。去年は7ヶ月かけて6点オートクチュールを制作しました。そしてroomsに出品する by hand and has been loved in the process. I spent seven months to create six haute 為に8点制作しています。数は少ないのですが、東京、ニューヨーク、ミラノのエディターの方々をた Couture pieces in the last year. I made eight pieces for rooms this year. "How did you ずねて一番言われたのが、「よくこんな服をつくろうと思われましたね」ということ。感動の度合いが make a piece like this?" That is the response that I got from some editors in Tokyo. How 全然違いました。毎年、数万という服を見て来ている人々を感動させるのはとても大変なことなので york and Paris. It was so hard to impress people, especially people who are seeing すが、人とは違ったこと、トレンドとは別なものを制作しているからこそ、感動してもらえるのだな millions of clothes all the time. But it's possible because I am doing something original, と思いました。僕自身は、これは僕にしかできない美的感覚、そして自分にとって一番やりやすい自 and I thought. 己表現を見つけたということです。そしてシーズンに追われること無く、一年に一度、自分の考えて simplest and the best way to express myself. No worries about "seasons" anymore. I いるそして一番興味のあることを6ヶ月かけてリサーチし、後の6ヶ月でそれを制作していくことを spend six months to research something that I am interested in and spend the rest of 続けて行くということです。多分これは質より量という現在の生活全体に対して、まったく逆のこと the year making it. This is totally against the quantity-versus-quality way of our today's をやっています。でもそういう人間が数人でもいいから必ず必要であると感じています。 life. But we need my kind of creator even if we are a minority.

Things that I expressed thorough
Haute Couture

基本に戻って新しい表現方法を見つけたいと思った...

I wanted to go back where I was started and find something new...